

2018
FEBRUARY
vol.31

協会だより

ひろば*

レポート

大会報告

スタート 施設の「ここにご注目!!」コーナー

ローマ ヴェネツィア広場

介護報酬の改定について

公益社団法人 群馬県老人保健施設協会 理事長 矢島祥吉

日本医事新報N.O.4880号(2017年11月4日)に『介護報酬改定について本格的議論がスタート 財務省はマイナス改定必要』という記事が記載されています。

11月11日に開催された桐生での老健大会において、介護報酬がマイナス改定の可能性が高いので介護報酬UPに向けてさらに全力をあげていくことを訴えました。それは、今まで医療の分野であった療養型病床が介護医療院として介護保険に入ってきたので、当然それらの介護財源がさうに確保されなければならなくなりました。そのため6月より介護財源確保に向けて署名を開始しました。

そのことは老健だけでなく、他の介護施設にとつても大事なことなので、特養や地域密着施設の責任者と話し合いました。そして理解して頂き、介護施設が全体で訴えていかなければならぬことが合意されました。

介護財源確保の署名活動はさらに広がり、11月15日には188万人以上の署名を安倍首相に提出しました。その結果12月14日の新聞報道では、6年ぶりにプラス改定となり介護報酬0.5%upとなりました。

現在、介護人材の不足がひどくなっています。介護をめぐっては、安倍政権が「介護離職ゼロ」を掲げ、2020年代初頭までに介護の受け皿を50万人分整備すると言っていますが、約25万人の介護人材が不足すると見込まれています。この介護人材の不足をどのように埋めていくのか。

そのひとつとして外国人の確保が必要とされ、外国人技能実習制度が昨年11月から実施されていますが、12月13日の新聞では外国人実習後の失踪が急増していること、本当に大丈夫なのでしょうか。

65歳以上でも元気な高齢者はたくさんいます。老健はこの方々を「介護助手」として受け入れ始めました。この方も職員として認めていただけたらありがたいです。全ての介護施設が連携して、地域の「介護助手」を育成していくことが必要ではないでしょうか。

ともかく、もっと地域の皆さんと共に智恵を出し合って、現在の介護人材不足を乗り切っていきたいと願っています。

大会情景とご意見



- 興味深かったが、近くでゆっくり見れず残念でした。
- よく研究されていました。スムーズな進行も好感でした。
- 来場者も多く、質問も沢山出ていたので活気がありました。



- 新しい製品や試したい物があり、情報収集できて良かった。
- 試供品で検討できて良かった。
- エアーマット、自動体位変換に興味。



その他ご意見

- 看護、介護、リハビリスタッフを目指す高校生を呼んでも良いと思います。
- 大会テーマと各演題がもう少しつながりがあると、大会としてさらに有意義になるのではないか。



- 実際に関わり方を変えたビデオが衝撃的だった。ちょっとした関わりで安心、安樂を得られるので1つ1つの介入は意味があり、意味をなくすのもまた介護者なのだと改めて感じられた。
- 極めて実践的であり有意義であった。熱心な講演に感服。
- ユマニチュードってすごい。実践したいと思った。



- 高齢社会の現状を詳しく知ることができよかったです。
- 認知症の種類、症状を改めて学べた。又、脳の働きについて部位によって対応の仕方、特徴を知ることができ良かった。
- 多職種向けの丁寧な講演でした。



全体の雰囲気

- 参加者が皆、施設や自らのため熱心に参加し、良い雰囲気になっていたと思う。
- 多くの老健が参加していて、多職種のコミュニケーションで発表がなされており、参考になった。



- 現場での学びという実際の成果が共有できた。これからの関わりに活かしていくたらと思う。
- 在宅復帰の可能性を向上させるヒントが沢山ありました。
- 座長さんの質問が的確で視点が広く参考になりました。

今回のテーマは 「その人らしさ、ハビリスの実現」

- 誰のためのケアかもう一度考え直してみようと思った。
- 初めて聞いた言葉。その人らしさを忘れず介護していきたい。

今大会で良かった点

- 各施設の発表内容が今までの大会よりレベルアップしていましたように感じました。利用者様のケアの視点でこれからの中寿社会を意識したものが多かった。
- パンフレットが良くており場内案内も適切であった。

今大会で悪かった点

- 会場の席が少なく着席できない方が多かった。もっと多くの方が座れるように工夫してもらいたい。
- ポスター会場入り口ドアが開いていたので、廊下のしゃべり声などが気になった。

第27回群馬県老人保健施設大会



介護老人保健施設
プランタンおおま
施設長 水間春夫

昨年11月、群馬県老人保健施設大会が「その人らしさ、ハビリスの実現について」というテーマのもと桐生において無事開催されました。皆様から熱意のある発表や質疑応答をしていただき、誠にありがとうございました。ランチョンセミナーも転倒骨折など日々頭を悩ます領域のお話しをしていただき、勉強する良い機会になつたこと思います。

第27回群馬県老人保健施設大会を終えて

先生に「ユマニチュードの視点」から特別講演をしていただきました。熱意にあふれたお話しに皆様引き込まれたことと思います。視聴覚や判断、理解力が低下してしまうと、介護者がいくら心を込めて接しようとしても「怖い」「何をされるのか分からず不安」といった気持ちが強くなってしまうか? その方に受け入れていただける介護のやり方、心構えとはどのようなものでしようか? ユマニチュードの理念・方法を日常の業務に取り入れていただければ幸いです。
最後に今大会の準備、当日の運営にご尽力いただいた東毛ブロックの運営委員ならびに協賛いただきました各位に心より御礼申し上げます。



施設の「ここにご注目!!」コーナー

群馬老人保健センター
陽光苑

心も身体も元気なデイケア

介護福祉士 関 裕樹

陽光苑デイケアでは「より楽しく、より豊かに生活したい」「自分の事はできるだけ自分でやりたい」という利用者のニーズに基づいて自立支援に向けた様々な取り組みを行っています。心身の個別リハビリ、自主トレーニングに基本を置きながら、バランスのとれた自立支援を目指して、利用者が愉しめる参加交流のプログラムを創り実践しています。



☆集団レクリエーション

1群（身体機能の向上）2群（認知機能の維持向上・脳活性化）3群（コミュニケーション・交流）と分けて計画的に実施しています。

今年から介護ロボットのパルロが仲間入り「名前は陽ちゃん」利用者様との会話はもちろん、歌ったり、踊ったりレクリエーションも行います。

今後も、色々な企画を考え、実践していきたいと思います。

今年もよろしくお願いします。



☆同好会活動

同好会一覧	
月曜日	書道同好会
火曜日	将棋教室
水曜日	映像研究同好会・パソコン教室・麻雀同好会
木曜日	音楽鑑賞同好会
金曜日	カラオケ同好会
土曜日	書道同好会



施設の「ここにご注目!!」コーナーについて

これまで永らく『みてみてコーナー』を支えていただきありがとうございました。

振り返りますと、群馬県で介護老人保健施設が誕生したのが昭和63年ですから、老健もたくましい29歳の好青年になった訳です。経験を積んだ働き盛りの青年です。これまでの歳月利用者様と真摯に向き合い、最良の介護を求めていろいろ試行錯誤する中から、これだと思えるノウハウを積み上げてきたことだと思います。

ちょうど『みてみてコーナー』での紹介施設が一巡した今回、Vol.31から新企画を試みました。

施設が行っている介護業務のなかから、一押しの業務を切り取ってご紹介していただこうというものです。

これからは行動する施設がますます求められるのではないでしょうか。貴施設の特色ある業務をこの新コーナーでアピールしませんか。リハビリテーション、おいしい食事、快適な入浴、クラブ活動等々、施設のこだわりや目指すところを大いに語ってください。刺激あるコーナー作りにぜひ一役買っていただきたいと思います。

この「ひろば」は6,000部発行しています。県内の福祉事務所、市町村、福祉関係養成施設、全高校、社会福祉協議会、民生委員・児童委員協議会、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、病院医療連携室に配布され、多くの皆さんにご覧になっています。

投稿、待ってます!!

介護老人保健施設
ひまわり

認知症看護介護の取り組み

看護副主任 田中 裕子

老健ひまわりでは、認知症看護認定看護師を中心に、認知症リーダー研修修了者、認知症ケア専門士が看護介護職員をまとめています。笑顔で接し信頼関係を築けるようにコミュニケーションを図り、その人らしさを尊重するケアを多職種でカンファレンスし認知症ケアに取り組んでいます。

施設利用者に限らず本年度から認知症予防にも取り組み、地元自治体で行っているミニデイサービスの時間に認知症予防出前講座を開催しています。

地元住民の皆様が認知症について正しく理解し、認知症予防の知識を持って認知症になってしまって支えあえる町をめざした活動を行っています。

利用者ケアでは群馬認定介護福祉士、介護福祉士実習指導者をはじめとする資格を取得するとともに、各種研修に参加し知識、技術の習得や未来の介護人材育成にも力を入れています。当施設では、介護職員全員が介護福祉士の資格を有し、質の高いサービスを提供しています。



介護老人保健施設
あけぼの苑

移動販売車が来た！

介護福祉士 豊田 久美子

あけぼの苑は榛名・倉渕地域の方の利用が多い施設です。自然豊かな環境には恵まれていますが、交通手段の選択肢が少ない地域です。そんなあけぼの苑の通所リハビリテーションのご利用者様から「買い物がしたい」との声が聞かれた事をきっかけに、移動販売車導入を決定しました。

現在は2社の販売車が週に1度ずつ来ています。職員は見守り・付き添いを行い、利用者様にお支払いもお任せしています。

♪利用者様・ご家族様の声♪

- 嫁から「夕飯のおかずになるので助かる。」と言ってもらえるので嬉しい。
- 孫が楽しみに待っているので張り合いになる。
- 買い物は嫌がっていたが、買ってきた物を褒めるとニコニコしていた。「また買ってくるよ。」とイキイキしていた。



移動販売車導入の結果、買い物をきっかけに会話の機会が増加したとの声も聞かれ、家庭内での役割ができ、生きる張り合いを強めることに繋がっていると感じています。

これ知ってました？

… 認知症とは その2 …

原因疾患を正しく理解しよう

認知症の原因となる疾患のうち代表的なアルツハイマー型、レビー小体型、脳血管性認知症の3つに、前頭側頭型（ピック型や意味性認知症）を加えて四大原因疾患と言われます。それぞれの特徴を理解することにより、その人のどこに重点を置くべきかわかります。

＜アルツハイマー型認知症＞

大脑皮質連合野や海馬領域を中心に β アミロイドというタンパク質のゴミ、続いてタウタンパクが神経細胞内に蓄積し、神経細胞のネットワークが壊れると発症します。

比較的早い段階から記憶障害、見当識障害のほか、不安・うつ・妄想が出やすくなります。

＜レビー小体型認知症＞

パーキンソン症状や幻視を伴い、症状の変動が大きいのが特徴です。

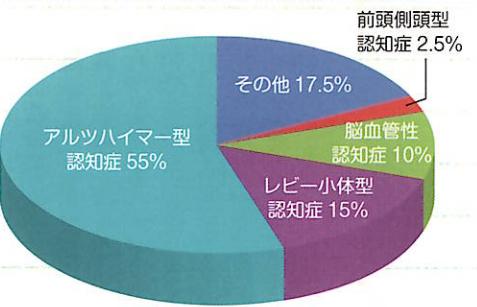
＜脳血管性認知症＞

脳梗塞、脳出血、脳動脈硬化などのために、神経の細胞に栄養や酸素が行き渡らなくなり、神経のネットワークが壊れて、意欲が低下したり複雑な作業ができなくなったりします。

＜前頭側頭型認知症＞

司令塔役の前頭前野を中心に傷害されるため、がまんしたり思いやりなどの社会性を失い、「わが道を行く」行動をとる特徴があります。

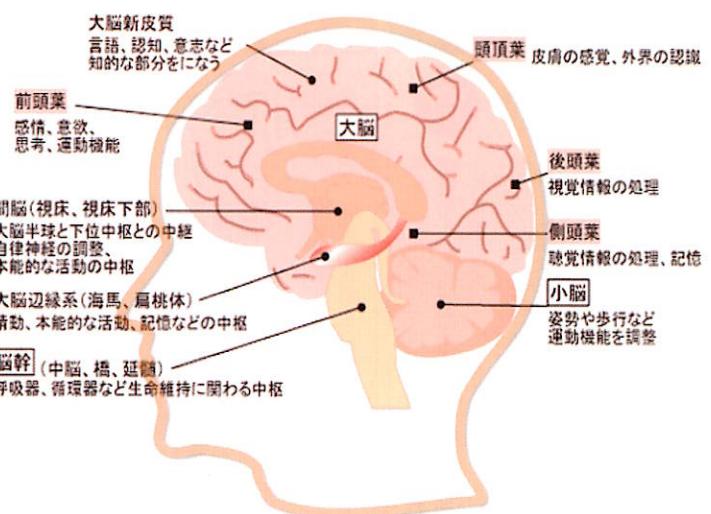
認知症の原因疾患の種類と割合



脳の機能の役割分担

原因疾患により脳内で変化する場所（病変部位）は異なり、それが症状の違いとなって現れます。まずは脳（主に大脑）の基本的な機能・働きをおさえておきましょう。

大脑は、その表面が大脑皮質によって覆われています。大脑皮質は、前頭葉、頭頂葉、側頭葉、後頭葉の4つに大きく分けられ、それぞれの部位には特定の機能があります。認知症の原因疾患によりいずれかの部位が障害されると、その部位が司っている機能が役割を果たせなくなります。



疾患別支援のポイント

＜アルツハイマー型認知症の人＞

- できることとできないを見極める
- できることに目を向ける
- サインを見逃さない
- 実行できないことは、一緒にやってみせる
- その人の訴えを否定せずに受け止める



＜レビー小体型認知症の人＞

- 状態変動のパターンを把握する
- 幻視、幻聴の対応は否定も肯定もしない（「誰もいないですよ」「私にも見えます」など）
- レム睡眠障害（睡眠中に大声を出したりする）があれば気持ちが落ち着く働きかけをする
- 起立性低血圧に注意する
- 歩行時は姿勢や歩調に合わせて声かけをする



＜脳血管性認知症の人＞

- その人の状態をしっかり把握する
- プライドを傷つけない支援、声かけをする
- 残存機能を活用した支援をする
- 強いこだわりがあっても否定しない
- 転倒などのリスクに注意する

＜前頭側頭型認知症の人＞

- その人の行動パターンを把握し、その行動を日課に組み込む
- 興味を示すものを用いて、作業に関わってもらう
- 誤嚥を防ぐために、小分けにして食事を出す

本人を知ろう

認知症の人は、介護拒否やさまざまなBPSD（行動心理症状）があり、ケアがとても困難だという声をよく聞きます。その原因に、自分の思いを適切に表現できない認知症の人と、介護する側との間に“ズレ”が考えられます。

認知症ケアにあたっては、病気の理解はもちろん重要です。それとともに大事な事は尊敬の気持ちをもってしっかりその人に向き合い、深く知ることが必要です。なぜなら寄り添うケアは「その人」しか持っていないからです。

安心できる居場所づくりや、声なき声を聴きながら、認知症の人の命や生き方、人生をサポートすることで、認知症の人と信頼関係が築けるようになります。

ご家族のための介護保険情報／～その17～

社会を支える私たちの理解

「またまた変わる介護保険」

来たる平成30年度に介護保険制度が少し変わります。「えつ、また?」という感想を持たれる方も少なくないでしょ。そして「また負担が増えるの?」「また使いたくなるの?」、といった良くない方への改定になるのだろうと考える方のほうが多いのではないのでしょうか。

なぜなら、テレビや新聞が国の厳しい財政状況や社会保障制度には巨額の費用が必要であることを様々に報道している実情があるからです。もちろん、それらは事実であり「フェイク・ニュース」などではありません。

「合理的無知」とは

聞こえはよくないのですが、「合理的無知」という概念があります。私たち市民にとっては、社会や政治、経済の世界で起きていることについてある程度の関心は持つても詳細や専門的な理解には一定の限界があります。全部理解できればいいのではありますが私たちは日常生活を送るために他にやらなければならないことが山ほどあります。政治や経済、社会保障の難しい勉強をするために時間を使う暇などありませんし、そんなことをしていたら食べて行けなくなってしまいます。とても大切な自分の時間を専門的な勉強に使うことよりも、自分のことや家族のことについて時間を使う方が合理的と考えて「合理的な選択」として、小難しい話には関心を払わない、払うことができないという選択をせざるを得ないわけです。それが、合理的な無知と言われるものです。ただし、合理的な無知は誰にでも当てはまるものであり、決して良くない意味で解釈する

ものではありません。念のため…

「納得するまで訊いてみる」

しかし、「理解できないから、どうでもいいや」では国の人にとっては介護が切実な問題であっても、別の人にとっては介護など頭の片隅にもなく保育園のことが問題だつたり就職のことが問題だつたりすることもあるでしょう。

そこでは自分にとって身近な事柄について理解を深めるよつにしたいのです。何も専門的な勉強をする必要などありません。専門的なことを知っている人に訊いてみればいいだけです。自分が納得でき理解できるまで訊けばいいのです。納得や理解できないような説明しかなされないようならば、その人は専門家ではありませんから別の人に訊いてみましょう。

「社会保障は難しい」

世の中には困り事を抱えている人が大勢おり、困ります。個々別々であっても共通するものについて社会保障制度などが対処しています。社会保障は政治や経済と同様、国を成り立たせるための重要な機能のひとつなのです。そのため学問レベルでも大変に難しいものであると認識されています。しかし、大切なことは社会保障の重要な構成要素に私たち市民の「意識、合意、理解」が含まれていることです。ですから、難しくても誰かに訊いて一人ひとりが理解を深めていきたいものです。

介護老人保健施設若宮苑 副施設長
安藤 繁

協会行事予定



施設の「空床情報」等、協会HPへ掲載しています。是非ご覧ください。

<http://www.gunma-roken.jp/>

あとがき

K.T YY YT

まだまだ寒い日が続きます。皆様体調管理に気を付けましょう。
インフルエンザのシーズンがやってきました。うがい、手洗い、マスクの習慣、大切ですね。

協会・事務局コーナー

2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
栄養担当職員研修会 代表委員会	臨時理事会 「介護報酬改定」研修会 金老健群馬県支部書面による支部総会	臨時理事会 「介護助手」養成事業成果説明会	14日(土) 14日(水)	14日(木) 14日(火)	14日(水) 14日(木)	16日(水) 16日(水)	16日(水) 16日(水)	18日(金) 18日(金)	10日(水) 10日(水)	10日(水) 10日(水)
西毛・北中毛ブロック作品展(案)	西毛・北中毛ブロック作品展(案)	西毛・北中毛ブロック作品展(案)	臨時委員会	臨時委員会	東毛ブロック作品展	通常理事会	通常理事会	通常理事会	通常理事会	通常理事会
代表委員会	代表委員会	「介護報酬改定」研修会	定時総会	定時総会	定時総会	リハビリ担当職員研修会	リハビリ担当職員研修会	リハビリ担当職員研修会	通常理事会	通常理事会
「介護助手」養成事業成果説明会	「介護助手」養成事業成果説明会	「介護助手」養成事業成果説明会	「介護助手」養成事業成果説明会	「介護助手」養成事業成果説明会	「介護助手」養成事業成果説明会	「介護助手」養成事業成果説明会	「介護助手」養成事業成果説明会	「介護助手」養成事業成果説明会	「介護助手」養成事業成果説明会	「介護助手」養成事業成果説明会